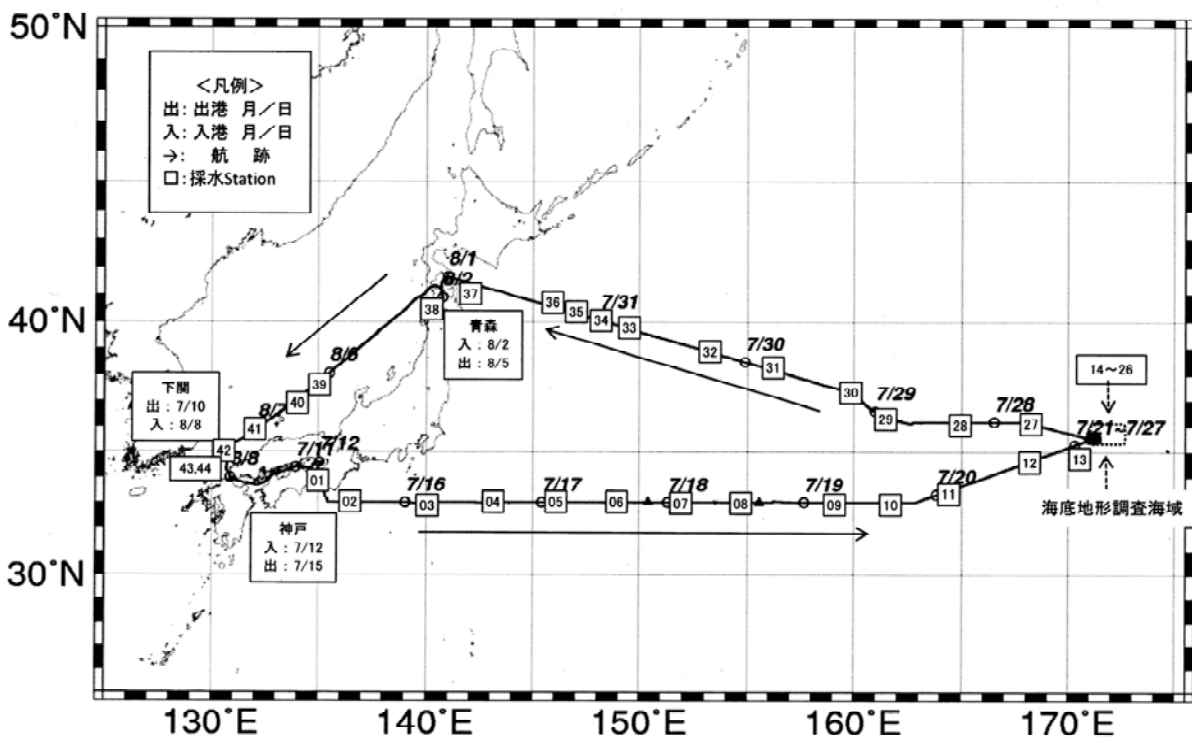


## 耕洋丸第28次航海（天皇海山調査）における放射線測定について

本校練習船耕洋丸が第28次実習航海（7/10-8/8）において実施した天皇海山海底環境調査（水産庁委託）海域への航路上において、海水の放射線を調査しましたので、その結果と、多くの漂流物が発見されたことから、その概要をご紹介します。

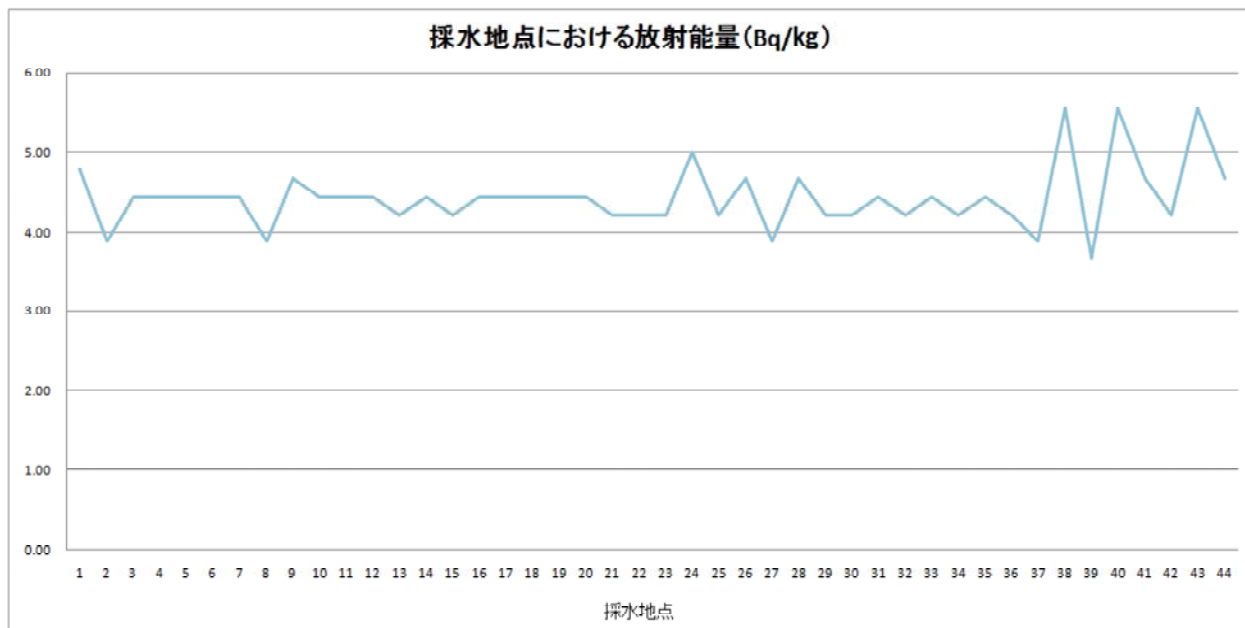
### 1. 航路図及び測定地点

水産大学校 耕洋丸 航跡図



## 2. 海水の放射能量測定結果概要

7月15日の神戸出港後から8月8日の下関帰港まで、ほぼ毎日2回（青森入港時を除く）、表層水を採水しGMサーベイメーターにより簡易測定を行いました。結果概要は以下のとおりですが、ベクレル換算で5.56Bq/kg以下であり、厚労省の飲食物摂取制限に関する指標の放射性セシウムによる飲料水200Bq/kg、さらには環境省の水浴場の放射性物質に関する指針の放射性セシウムの水中濃度50Bq/lを大きく下回るものでした。



### 3. 漂流物の状況

航海中、特に漂流物が多く現認されたのは、採水地点で見ると 26 から 36 の間（天皇海山から青森入港にかけて）であり、震災によるものとは断定できないものの、漁具（網、浮子等）、材木（角材、柱等）、舶用品（防舷材等）など、中にはタイヤや冷蔵庫、ガスボンベなども漂流していました。なお、航行の安全に支障を生じるおそれのあったものについては、耕洋丸から海上保安庁へ通報を行いました。



漁具（天皇海山海域）



プロパンガスボンベ（天皇海山海域）



家屋の柱とみられる木材（天王海山海域）



小型ボート（採水地点 34 付近）